

仲よしがけんかした話

小川未明

青空文庫

風かぜのない暖あたたかな日ひでした。お宮みやの前まえに伸しんちゃんと、清せいちゃんと、そのほか女おんなの子こたちがいつしよになつて遊あそんでいました。ときどき風かぜが境けい内だいのすはぎの林やしに当あたると、ゴウーといつて、海かい岸がんに寄よせる波なみの音おとを思おもひ出ださせたとあります。

「清せいちゃん、撃げ剣けんごつこをしようか。」と、伸しんちゃんが、いいました。二人ふたりは、いつも学が校っこうへいつしよにいき、帰かえつてくると、いつしよに遊あそぶ仲なかよしでありました。そして、まれに一人ひとりに用よう事じがあつて、だまつて先さきへいくことがあつても、おいていかれた一人ひとりは、そんなことおこで怒おこつて、明あくる日ひはもう誘さそいにいいかないといいうようなことは、ありませんでした。

「あ、しようよ。」と、清せいちゃんが、こたえたので、伸しんちゃんは急いそいで、家うちへ帰かえつて、たくさん新聞紙しんぶんしを持もつてききました。そして、それを二ふ分ぶんして、二人ふたりは、たがいにそれをを堅かたく巻まいて、新聞紙しんぶんしの棒ぼうを造つくりました。

「どつちが、勝かつかなあ。」と、年としちゃんや、かね子こさんが、おもしろがみつて見みていました。

「いいかい、三本勝負さんぽんしょうぶだよ。」と、清せいちゃんが、いいました。

「年ちゃん、君審判になつておくれよ。」と、伸ちゃんが、いいました。

このとき、とき子さんも、つね子さんも、徳ちゃんも、あちらから駈けてきました。
「お面！」と、清ちゃんは、打ち込みました。

「だめ、いまのは、かすつたのだ。」と、伸ちゃんは、頭を振りしました。

「お胴！」と、今度は、伸ちゃんが打ち込みました。

「入った！」と、年ちゃんが、片手をあげて、叫びました。

「きつと、伸ちゃんの勝ちよ。」と、つね子さんが、伸ちゃんのひいきをしました。

「お胴！」と、清ちゃんが切り込みました。伸ちゃんは、それを受け止めようとして、持っている紙の棒を落としました。

「タイム！」と、伸ちゃんは、要求しました。そして、紙の棒を拾おうとすると、清

ちゃんは、

「お面！」と、いつて、伸ちゃんの頭をポン、ポンと二つたたきました。

つね子さんも、時子さんも、みんながげらげらと笑いました。

「おい、卑怯だよ！」と、伸ちゃんが、顔を真っ赤にすると、清ちゃんは、急に逃げ出しました。伸ちゃんは、みんなの前で、頭をたたかれたのを恥ずかしく思つたのでしよう。

ほんとうに、このときばかりは怒^{おこ}って、清^{せい}ちゃんの後^{あと}を追^おいかけました。清^{せい}ちゃんは、逃^にげ場^{ばうしな}を失^{うしな}って、酒屋^{さかや}さんの店^{みせ}へ飛^とび込^こみました。

「小僧^{こぞう}さん、伸^{しん}ちゃんが追^おいかけてきたのだ。助^{たす}けておくれよ。」と、清^{せい}ちゃんは、いいました。

「けんかをしたのか。早^{はや}く、ここから裏^{うら}の方^{ほう}へ逃^にげよ。」と、小僧^{こぞう}さんは、黙^{だま}って、木^き戸口^{どぐち}を開^あけてくれました。すぐ後^{あと}へ伸^{しん}ちゃんが、息^{いき}を切^きらして走^{はし}つてきました。

「どこへいった？」と、小僧^{こぞう}さんにきました。

「清^{せい}ちゃんか、あっちへ逃^にげていったようだ。」と、ちがった方^{ほう}角^{かく}を指^{ゆび}さしました。

「うそだい、あいつ卑^{ひきよう}怯^{ひきよう}なんだよ。」と、伸^{しん}ちゃんは、怒^{おこ}っていました。

「かんにんしておやりよ。」と、小僧^{こぞう}さんは、笑^{わら}っていました。

「あやまればいいのに、逃^にげるからさ。僕^{ぼく}、ひどいめにあわせてやるのだ。」と、伸^{しん}ちゃんは、いいながら、お宮^{みや}の裏^{うら}の方^{ほう}へまわつていきました。そして、どうしても清^{せい}ちゃんがその道^{みち}を通^{とお}らねばお家^{うち}へ帰^{かえ}れないところで、木^きの蔭^{かげ}に隠^{かく}れて待^まっていました。

「かんにんして、おやりよ。」と、年^{とし}ちゃんが、伸^{しん}ちゃんのところへやってきました。伸^{しん}ちゃんは、頭^{あたま}を振^ふりました。年^{とし}ちゃんは、あちらへいつてしまいました。つぎに、かね子^こ

さんが、伸ちゃんのところへきました。

「お友だちをいじめるのはおよしなさい。」と、伸ちゃんにいいました。伸ちゃんは、かね子さんをにらみました。かね子さんも、あちらへいつてしまいました。そのうちに日が暮れてきました。伸ちゃんは、木の下に一人いるのが、すこしきびしくなりました。

「清ちゃんが泣いているから、かんにんしておやりよ。」と、このとき、あちらから、と
き子さんの、甲高い叫び声がありました。伸ちゃんは、はじめて勝ち誇ったように、お家の方へかけ出していきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「小学文学童話」竹村書房

1937（昭和12）年5月

※表題は底本では、「仲《なか》よしがけんかした話《はなし》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年12月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

仲よしがけんかした話

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>